

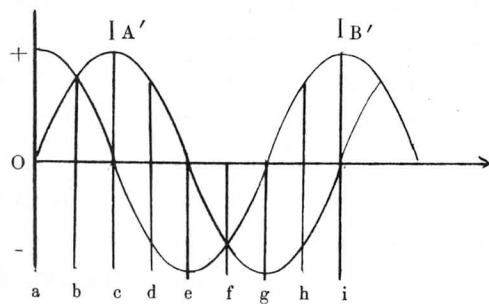
		t	a	b	c	d	e	f	g	h	i
A - A' コイル			0	→ N-S	→ N-S	→ N-S	0	← S-N	← S-N	← S-N	0
B B'	時計 回り	磁 極	S ↑ N	S ↑ N	0	N ↓ S	N ↓ S	N ↓ S	0	S ↑ N	S ↑ N
	磁 界 方 向		↑	↗	→	↘	↓	↙	←	↖	↑
コ イ ル	反 時 計 回 り	磁 極	N ↓ S	N ↓ S	0	S ↑ N	S ↑ N	S ↑ N	0	N ↓ S	N ↓ S
	磁 界 方 向		↓	↘	→	↗	↑	↖	←	↙	↓

表-1
中の t は
時間の経
過であり、
+, - は
電流の向
きで、S、
N は磁極
である。
さらに矢
印は磁界
の方向を
示してい
る。
なお、
反時計回
りの回転
磁界は、
配線図-
8 の破線
で示した

表-1

とおりに、ミノムシクリップを結線替えすればよい。

イ コンデンサ使用の場合



グラフ-4

であろう。次に、コンデンサ使用の場合も、表-1と同じように、一覧表にまとめて

回転子を時計回りに回転させるため、配線図-4の実線で示したように、ミノムシクリップを結線すると、グラフ-4で示されるように、A-A'のコイルにはIA'、B-B'のコイルにはIB'の電流が流れることになる。IB'は安定器使用の場合と異なり、位相が進んでいることがわかるで